

第 606 回 新潟放送番組審議会 議事録

審議番組

テレビ番組

「トキ 新世界を生きる」



平成 27 年 4 月 28 日

BSN新潟放送

第606回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年4月28日(火) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟放送本社 6F会議室

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	高井盛雄	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	小島良子
委員	佐藤元	委員	佐藤明
委員	細田康		

○委員側欠席者

委員 佐々木 広介

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報道制作局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己
		〈説明員〉報道制作局情報センター	
		プロデューサー	南 加乃子

事務局

事務局長 増山由美子(広報部長)

事務局員 丹羽 崇(社長室長)

4. 議題
- 1、諮問 「青少年に見てもらいたい番組」変更について
 - 2、報告事項 「放送番組の種別と種別ごとの放送時間」報告
「5月の新番組・単発番組」報告
 - 3、審議番組
テレビ番組 「トキ 新世界を生きる」
放送日時 3月21日(土祝) 10:30～11:25

5. 議事の概要

はじめに「青少年に見てもらいたい番組」の変更について、竹石社長が番組審議会に諮問した。島田編成局長が変更の内容を説明し、委員による審議を経て承認された。次に、編成局長より「放送番組の種別と放送時間・CM放送時間(10月～3月)」を報告。

各局長からの 5 月度番組報告に続いて、4月の審議番組「トキ 新世界を生きる」について、審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- トキの生態系を分かり易く紹介、佐渡の四季の美しい映像とともに見事な番組構成だった。学校の教材としても役立つ。トキの鳴き声を紹介できればより良かったが情報教育番組として高く評価したい。
- 自然界で生きるトキのけなげさ ひたむきさ 厳しさが良く表れている。トキの骨格や歴史、居住エリアについて知識が豊富になった。目からうろこで大変勉強になったが、取材が幅広くなりすぎて、中国のシーンが果たして必要だったのか？タイムリーな番組で、北陸新幹線開業と合わせて佐渡に足をむけたくなるような番組になった。
- ドキュメンタリー番組では通常、人間に焦点を当てる。今回は、トキの生態や歴史に焦点を当てた構成になっていてコンセプトが非常にはっきりしていた。トキが暮らす中国と日本との環境の違いなど貴重な情報でとても有益だった。学校の教材としても非常に適している。あえて気になった点は、番組構成面で次の場面展開が比較的分かりにくく、流れがつかみにくかった。また、教材として使うことを考えると、各場面の日時をはっきりナレーションでも伝えた方が良かった。BGMの音量が大きかった。
- 佐渡の郷土愛に溢れた内容。日本の主食であるコメを栽培する田んぼでトキが暮らし、人間と共生している姿は佐渡の自然の豊かさを示していて新潟にとって誇らしい。構成も素晴らしく子供が見ても良い。ナレーションのアナウンサーの表現力が良かった。
- 新潟県民としてトキに親近感を持ちながらも何も知らなかったことを認識させられた。生物多様性について考えさせられた。子供に見せるには難しい部分もあるので、子供向けの版があると良い。
- トキの足跡が 27 年間なかったと伝える番組の出だしが良かった。トキの生命力、たくましさすごかった。中国の現状を紹介して、きめ細かく制作していた。中国の部分だけをまとめて、別の番組を作ればもっと良かったと思う位だ。
- トキのくちばしがゆるやかにカーブしていることや、足に水かきが付いていること、また自然界の生物を食べるからこそトキ色と呼ばれる羽の色が生まれることなど、これまでのトキ紹介番組にはない観点が含まれていた。大人が楽しめる番組で、小学生高学年以上にはきっと分かり易かった。自然環境を整えばトキと人間とが一緒に住めることを子供に説明して伝えることで、環境教育につなげることができる。
- 自然界の生物をカメラでとらえることは大変だったと思うが、忍耐強くカメラを構えていた。くちばしを触ると体温を感じるといった表現で急にトキを身近に感じる事ができた。佐渡の四季を丁寧に紹介していて、手間がかかっている番組だと思った。トキ=佐渡と小さい構図に囲い込むのではなく、広い視野を持って、トキにとって暮らしやすい環境とは何かの問いかけがひしひしと伝わってきた。
- 中国の撮影許可が良く下りたと思った。トキを通じて新潟と中国とが連携し、日本と中国とをつなぐ番組になったのではないか。番組内で過去の出来事を取り上げる際、発生時期の西暦と年号の両方を紹介した方が良かった。

～制作担当・南プロデューサーから～

貴重なご意見をいただき非常に勉強になりました。

- 中国総領事館や新潟県と話し合う中で番組の構想が固まった。その直後、中国との関係が難しくなったが新潟から取材をスタートさせた。これまでの番組ではきちんと取り上げたことがないものばかりだった。なるべく専門用語を使わずに紹介したが、もう少し分かり易く伝えられたのではないかとの反省もある。
- 試行錯誤の取材で、トキの生態までたどりつくことは非常に困難だった。番組に社会的な意義があるとしても、トキを驚かせないように、地元の人々に迷惑をかけないように、小さな車内で三脚を広げ、小さい車窓から 40 倍のレンズで遠距離から撮影した映像をとりだめた。トキが鳴き声を出す場所は限られていて、音声を収録できる状況になかった。
- トキは佐渡から海を渡って飛んでくる。本州側の田んぼも他人事ではない。
- 中国での取材は年明けに急ぎよ、OKになった。今までにない映像でトキの生態をお伝えできたのは嬉しい。

【文責・番組審議会事務局】